

2. 比類なき魅力を備えた「みどり」のあり方



- 「みどり」を2期区域全体に展開し、概ね8ha(水面等も含む)を確保
- ①地上のまとまった「みどり」は、2期区域のシンボルとして、地区中央部に概ね4haを確保
 - 重要な視点場であるJR大阪駅からの眺望の確保や視覚的な一体感
 - 隣接する周辺の緑との連続性
 - 大規模災害時への対応における優位性等
- ②建築物と一体化し地上と連続する「みどり」は、民間の創意工夫により、地上部や低層建築物の上部において確保

3. 「みどり」と融合し価値を創造・発信する 「イノベーション」～導入する都市機能～

①新産業創出（例：健康・医療、環境・エネルギー等）

○成長著しい分野で関西の産業集積の強み・ポテンシャルを最大限発揮

②国際集客・交流（例：MICE・文化創造・発信等）

○「みどり」の空間の魅力による集客、関西の豊かな都市文化も活かし国際的な企業・産業活動等を誘致、展開

③知的人材育成（例：連携大学・大学院、国際化教育等）

○知の集積により世界で活躍するグローバル人材を育成、輩出

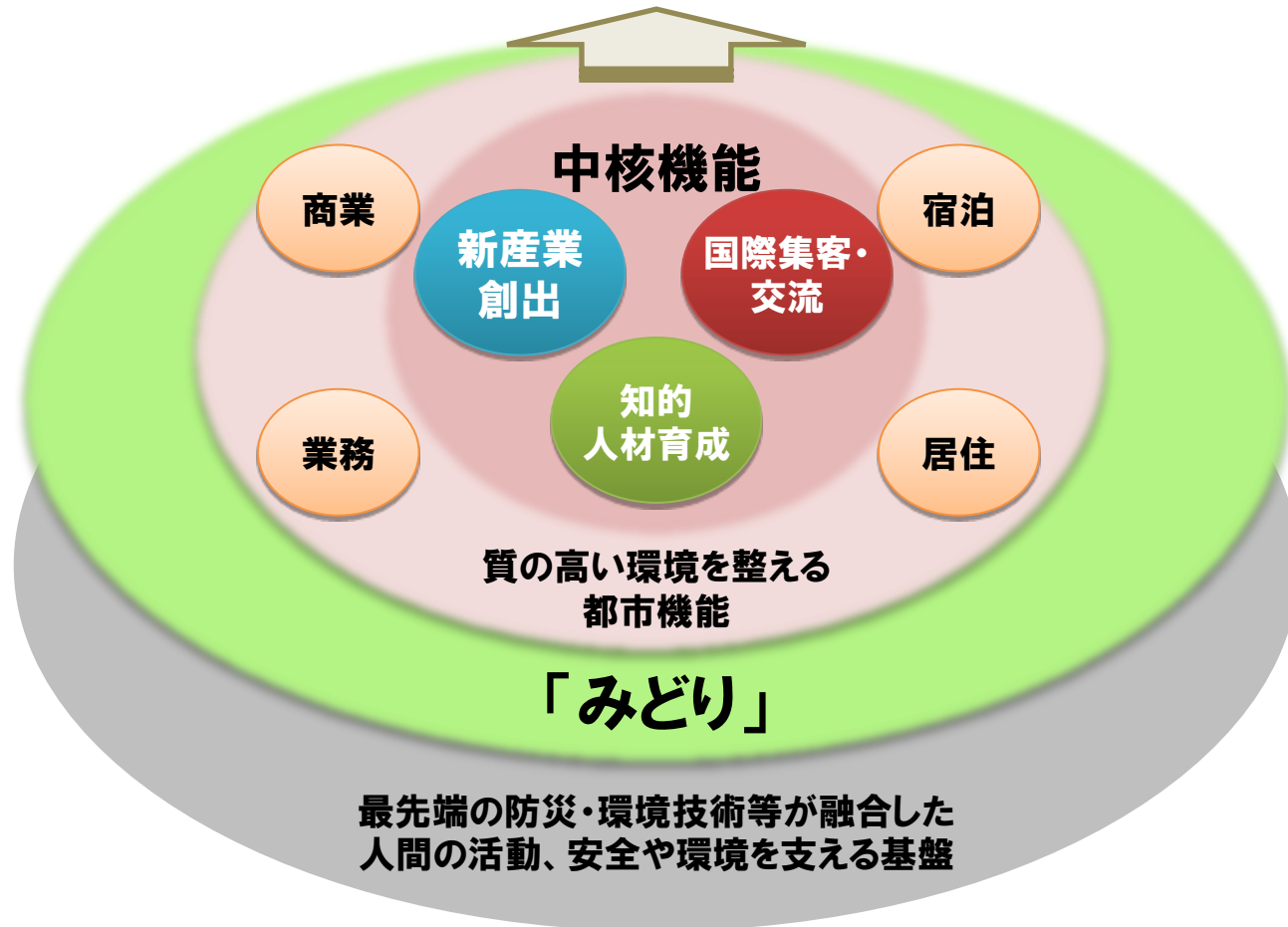


**なにわ筋線整備等で高まる拠点性を活かした中核機能の
導入で、関西の各都市との連携、発展、交流を促進**

関西の国際社会での存在感を新たなステージに強力に引き上げる

3. 「みどり」と融合し価値を創造・発信する 「イノベーション」～導入する都市機能～

「みどり」と「イノベーション」の融合拠点 イノベーションの創出



導入する都市機能の概念図

4. 「みどり」を体感できる空間づくり

南北軸

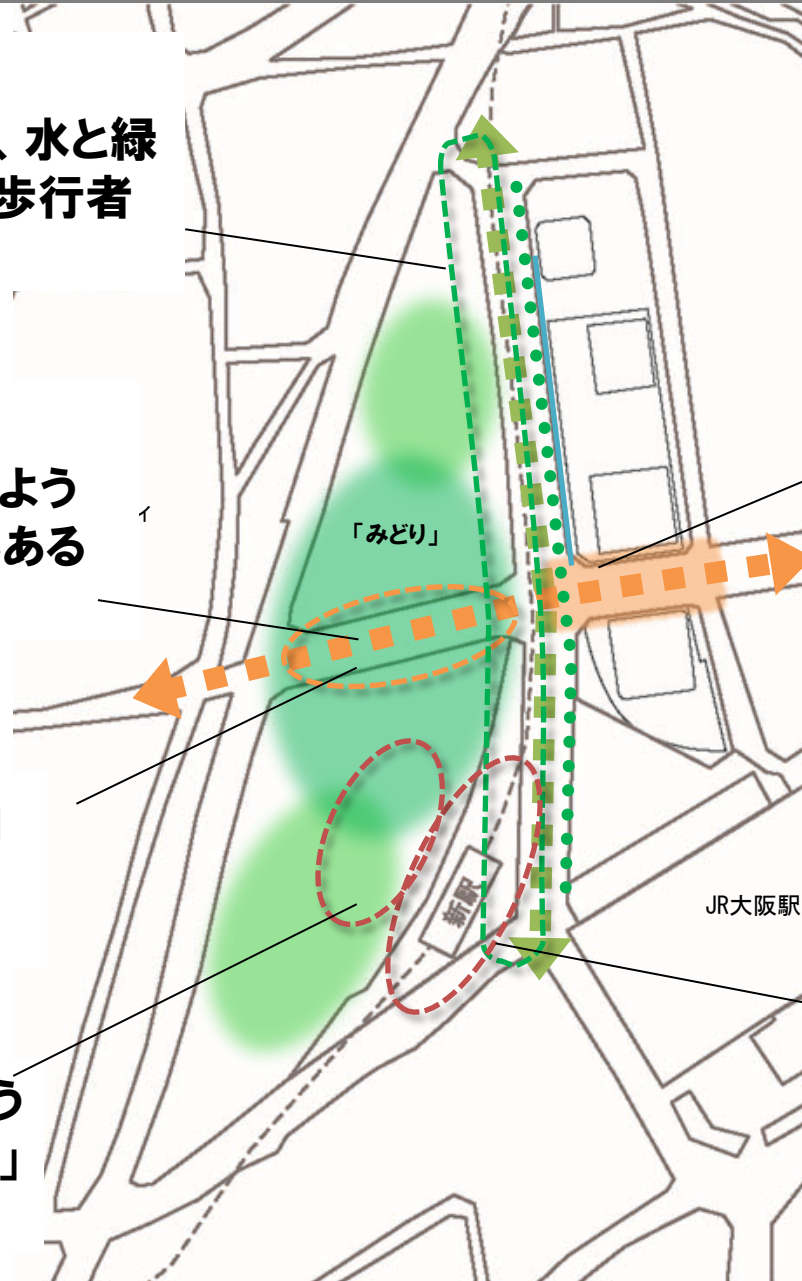
「みどり」と一体となり、水と緑を配置したゆとりある歩行者主体の空間形成

東西軸

「みどり」を体感できるように配慮しながら、賑わいある空間を形成

南・北街区の「みどり」の一体性、連続性の確保

新駅から地上に向かう人が印象的な「みどり」を体感できる工夫



阪急梅田駅方面、先行開発区域からの賑わいの連続性を意識

阪急梅田駅方面

西口広場

「みどり」のゲート空間としてのシンボリックな空間形成
開放性や快適性を持ち、周辺からの視認性の高い空間形成

5. 歩く楽しみ・喜びを創造するまちづくり

